

N11b WR104=V5107 Sgr の変光の CCD 観測

清田 誠一郎 (VSOLJ)

WR104=V5107 Sgr は、WCL 型のウォルフ・ライエ (WR) 星である。2001 年 4 月、長谷田勝美が新星の捜索中に変光に気づき、過去の捜索写真の調査から、214 日の準周期的減光を繰り返していることが報告されている (Kato ら、2002)。この星については、Tuthill ら (1999) によるケック望遠鏡での赤外干渉計の観測から、OB 型星との連星系 (軌道周期 243.5 日) であること、ガスによるらせん状の星周構造があることが報告されていた。変光と星周構造の関係を探る目的で、CCD による追跡観測を行っているので、最近までの結果を報告する。

観測には、口径 25cm のシュミットカセグレン望遠鏡と Apogee 社製 CCD カメラを用いた。測光は、V と Ic バンドで行った。

2001 年 4 月から 2003 年 10 月の観測で、4 回の食と思われる減光が観測された。減光の深さは、0.5-1.5 等 (Ic) で、減光毎に異なっていた。減光の際には、V-Ic の値が大きくなった。観測期間を通して、食外の光度もゆっくりとした減光傾向 (約 0.5 等) にあった。変光の原因を探るには、今後さらに観測を継続する必要がある。